

富士遊牧人

発行日：2023 年 5 月 10 日

発行元：株式会社 Graceland 関内慎介

〒418-0102 静岡県富士宮市人穴 793

富士山西麓朝霧高原 No.3



通信の表題がなぜ富士遊牧人（ふじゆうぼくびと）としたのかというと。その名を見るだけでどこで生活をしてどのような環境下に居るのかを情景的に想像することができるからです。また遊牧民とは意味合いが違いますが牧場（まきば）で遊ぶような業態を酪農だけではない土地活用を広げていきたいとの思いを込めて名付けました。この朝霧高原に生きていた証を残すこと、また人の心に残るようなものを書いていきたいと思えます。ちょっと堅いような名前ですが私にとっても読んでくださる方にとっても定着するように書き続けていきます。

5 月 5 日、一番牧草の収穫をしました。現状の酪農は資材飼料



の高騰により大変厳しい状況となっております。そういった中での収穫はとても大切なものです。今年は天気に恵まれ良質な牧草を隣の M さん、近所に住む K 君のたすけもありトラブル

なく収穫する事ができました。どうもありがとうございました。

2023 年 4 月。息子は家から車で 20 分の所にある北山中学校の支援級に入学いたしました。私は地域の人や友人に息子の事を話さなかった。それは結節性硬化症でてんかん発作が頻繁に起こり、また発達障害もある子供を持った恥ずかしさなのか他の子と比べての葛藤があったせいなのか、それに対し蓋をしてあたかも無いようにしてきたのかもしれませんが。父親として



この 12 年間息子に接してきたのは本当にいいものだったのだろうか？改めて考えてみると父親らしいとは何か？誇れる父親なのかと振り返ると思うわけです。

できるならヘッドギアを付けさせたくない。他の子と一緒にしてあげたい。私の自分勝手な葛藤があるがゆえにそう思うのです。最近ありがたいことに発作が少ないから余計なのですが、でも息子としては小さかったころからずっと

ヘッドギアを付けてきたので手放すことはできないとの事です。

デールカーネギー著の「人を動かす」の中に「父は忘れる」というリヴィングストン・ラーネッドの作品が載っています。そこには息子に対する罪の意識が書かれています。

子供に対し辛く当たってきたのだ。学校へ行く支度をしている最中にタオルで顔をちょっとなでただけと言って叱った。靴を磨かないからと言って、叱りつけた。また、持ち物を床の上

に放り投げたと言っては怒鳴りつけた。子供が食べ物をこぼしたり、テーブルに肘をついたりしたときに叱りつけた。

子供が「お父さんいってらっしゃい」と見送った時に顔をしかめて子供に対し「胸を張りなさい」と言った。

夜になって書斎でお父さんが新聞を読んでいる時に、お前は悲しげな目つきをしておずおずと部屋に入ってきたね。うるさそうに私が目を上げるとお前は入口の所でためらった。「何の用だ」と私が怒鳴ると、お前は何も言わずにさっと私のそばに駆け寄ってきて両手を私の首に巻き付けて私にキスをした。お前の小さな両腕には神様が植え付けてくださった愛情がこもっていた。どんなに蔑ろにされても決して枯れる事の無い愛情だ。そこで気付いた父親。怒ってばかりいる習慣。まだほんの子供に過ぎないお前にお父さんは何という事をしてきたのだろう。決してお前を愛していないわけではない。まだ年端もいかないお前に無理な事を期待しすぎていたのだ。お前を大人と同列に考えていたのだ。一人前の人間とみなしていたようだ。

明日からはきっとよいお父さんになってみせる。お前と仲良しになって一緒に喜んだり悲しんだりしよう。小言を言いたくなくてもこらえよう。そしてお前がまだ子供だという事を常に忘れない様にしよう。

息子は妻の身長に迫り超えようとしています。また筋力もついてきました。中学 1 年生になり腕相撲で妻に勝つほどです。図体がでかくなり声変わりしましたが、食事の際の箸の使い方やテーブルやフロアに食材を落とすことが多くあります。また漢字も算数も苦手です。制服のボタンを閉めるのもやっとのこととです。

息子の宿題を見るとついつい一生懸命口をはさみ「どうしてこれが分からないんだ」と怒ってしまいます。早く準備をしろ！とか薬を欠かさず飲みなさい！とか。

食事においても「綺麗に食べなさい。こぼしたら綺麗に掃除しなさい」と。どうにかして立派な大人になってほしいと願い言うのですが、それは親としての理想を子に押し付けている事と思います。子育てセミナーやこの「父は忘れる」を読んで今一度父親としての姿勢を正していけないと思いました。こんな父親で落第点がとても多くあると思います。それでも息子は「パパ」と言って甘えてきてくれます。息子は私にとって



かけがえのない天使なのかもしれません。その思いに報い「父は忘れる」を教訓に息子に接していきたいと思えます。